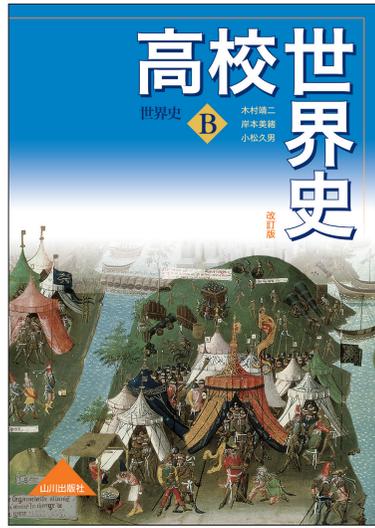


# 高校世界史 改訂版

世B314

【著作者】  
木村靖二  
岸本美緒  
小松久男  
油井大三郎  
青木 康  
水島 司  
橋場 弦  
佐藤次高  
今泉 博  
石井栄二  
小豆畑和之



B5判・282頁 予価861円

『詳説世界史』の内容をわかりやすい表現で  
**世界史B**  
**無理なく学べる**  
**基本をおさえて**

- 1 B5判を活かしたビジュアルなレイアウト**
  - 『詳説世界史 改訂版』の章立てに完全準拠!
  - 写真590点・地図100点以上!
- 2 学習意欲を高める興味深いコラム**
  - 109名の「人物コラム」
  - 「天使と悪魔」「食卓革命」など18の様々な視点からの歴史コラム
- 3 視点を変えて世界をとらえ直す特集ページと主題学習**
  - 各部に「主題学習」や特集「統治システムと宗教」を配置
  - 2・8・13・16・19世紀の「同時代地図」で横のつながりを俯瞰

## Message



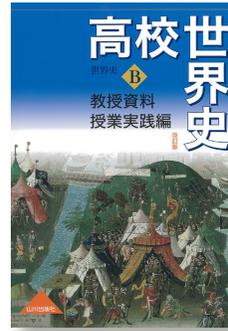
今泉 博  
(いまいずみ ひろし)  
昭和学院秀英高等学校  
講師

『高校世界史』代表者メッセージ  
 21世紀にはいつても早くも10年以上が過ぎました。20世紀後半を特徴付けた東西冷戦体制が終焉して20年以上が過ぎ、この時代が第16章「現在の世界」として扱われています。20世紀末からのIT革命の急速な進展・普及にともないグローバル化が進み、社会も早いスピードで変化し続けています。こうした時代だからこそ、世界史を学ぶ意義が増していると考えます。

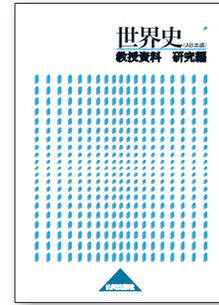
本書は、内容面では近年進んだ新しい研究成果を積極的に取り入れ、同時にこれまで以上に読んで理解しやすい記述を心がけました。構成面では、B5判のため写真・地図を多く盛り込み、生徒の関心を高めるコラムや通時的テーマ「統治システムと宗教」などを設けました。

21世紀を生きる高校生が置かれているグローバルかつ歴史的な位置を確認し、先に進む眼を育てるため、この教科書が大いに活用されることを願っています。

## 高校世界史教授資料



授業実践編



研究編

## パソコンソフト



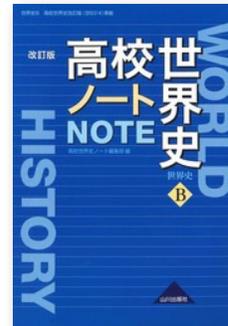
教科書ソフト



世界史正誤問題データ集

対応していて  
使いやすい

## 準拠ノート



高校世界史改訂版  
ノート

## 問題集



高校世界史基本用語  
問題集ツインズ・マスター  
改訂版

## 電子黒板・プロジェクター用



世界史デジタル教材集



NEW世界史デジタル素材集

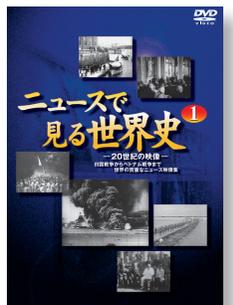
## DVD教材



授業で使える  
世界史映像集  
(全3巻)



ムービー世界史



ニュースで見る世界史

みなさんは、これからこの教科書で世界史を学習します。中学校の歴史学習では、世界諸地域の歴史は断片的にしかとりあげられませんでした。高等学校では、世界の歴史を系統的に学習します。情報通信技術の革新とともに、これまでにないスピードで世界の動きが変化している現代に生きる私たち日本人にとって、世界史を体系的にとらえなおすことは、たいへん重要です。

世界史は、私たちにとって意味のない遠い過去の出来事や人物を暗記する科目ではありません。人類がうみだした文明の経験に学びながら、歴史的に考える力をやしない、21世紀の世界の担い手としての自覚と資質をつちかうことが、学習の大きな目的なのです。

本書の第Ⅰ部・第Ⅱ部では、文明の誕生から15世紀ころまでの時期を扱います。世界の諸地域間の交流がまだ限られていたこの時代に、それぞれの特有の自然環境や地理的条件のもとで、言語や宗教を共通の基盤として、社会のしくみや生活様式などの独自の文化的枠組みをもつ地域世界が形成されました。

第Ⅲ部・第Ⅳ部では、16世紀ころから21世紀の現在までの時期を扱います。各地域間のヒト・モノ・情報の移動をとおした交流が密度を増したこの時代に、諸地域世界はさまざまなネットワークで結ばれ、同時にそれぞれの地域の独自の文化的枠組みも変容をせまられました。こうした世界の一体化と、それに続くグローバル化の過程をへて、現在の私たちの世界があります。

本書では、世界史に興味をもち、理解を深め、確認する手助けとなるよう、冒頭に「世界史への扉」を設け、各部ごとに特集「統治システムと宗教」や「主題学習」を設けました。また第Ⅰ部～第Ⅲ部には、地球規模での世界の動きが理解できるよう、2世紀・8世紀・13世紀・16世紀・19世紀の同時代史を付しています。さらに世界史を学ぶことの面白さを知ってもらうため、多くの歴史的事項や、人物のコラムもつけています。

みなさんが、これから生きていく地球世界での課題を見出し、その解決の手がかりをつかむ主体的な取組みの一助として、本書を利用してほしいと願っています。



17世紀にイタリアでつくられた天球儀

❖目次❖

世界の自然(表見返し)  
世界史を学ぶみなさんへ

- 世界史への扉① 自然災害と人類……4
- 世界史への扉② 日本の年中行事・祭り与世界……6
- 世界史への扉③ 弦楽器の世界史……8

第Ⅰ部 第Ⅰ部概観……11

序章 先史の世界……12

第1章 オリентと地中海世界……14

- 1 古代オリент世界……14
- 2 ギリシア世界……21
- 3 ローマ世界……28

第2章 アジア・アメリカの古代文明……35

- 1 インドの古典文明……35
- 2 東南アジアの諸文明……39
- 3 中国の古典文明……42
- 4 南北アメリカ文明……48

【2世紀の世界】……50

統治システムと宗教 ①  
古代国家と宗教……52

第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成……53

- 1 草原の遊牧民とオアシスの定住民……53
- 2 北方民族の活動と中国の分裂……55
- 3 東アジア文化圏の形成……58

第Ⅰ部 主題学習  
時間軸からみる諸地域世界……62

年間指導計画例

4月 10

5月 11

6月

第Ⅱ部 第Ⅱ部概観……63

第4章 イスラーム世界の形成と発展……64

- 1 イスラーム帝国の成立……64
- 2 イスラーム世界の発展……67
- 3 イスラーム化の進展……69
- 4 イスラーム文明の発展……71

【8世紀の世界】……74

第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展……76

- 1 西ヨーロッパ世界の成立……76
- 2 東ヨーロッパ世界の成立……83
- 3 西ヨーロッパ中世世界の姿容……87
- 4 西ヨーロッパの中世文化……96

統治システムと宗教 ②  
中世キリスト教とイスラーム……98

第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開……99

- 1 トルコ化とイスラーム化の進展……99
- 2 東アジア諸地域の自立化……101
- 3 モンゴルの大帝国……106

【13世紀の世界】……110

第Ⅱ部 主題学習  
空間軸からみる諸地域世界……112



砂漠をいく隊商

同時代地図を7点入れています。

世B314

高校世界史

改訂版

章立ては『詳説世界史 改訂版』に完全準拠！  
『詳説世界史』の内容に沿いながら、しっかり基本を学べます。

# 第Ⅲ部

第Ⅲ部概観……113

## 第7章 アジア諸地域の繁栄……114

- 1 東アジア世界の動向……114
- 2 清代の中国と隣接諸地域……118
- 3 トルコ・イラン世界の展開……121
- 4 インド・東南アジア世界の展開……123

## 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成……125

- 1 ヨーロッパ世界の拡大……125
- 2 ルネサンス……128
- 3 宗教改革……131
- 4 ヨーロッパ主権国家体制の形成……133

## 【16世紀の世界】……138

## 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開……140

- 1 重商主義と啓蒙専制主義……140
- 2 ヨーロッパ諸国の海外進出……145
- 3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会……148

## 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立……151

- 1 産業革命……151
- 2 アメリカ独立革命……154
- 3 フランス革命とナポレオン……156

## 第11章 欧米における近代国民国家の発展……161

- 1 ウィーン体制の成立……161
- 2 ヨーロッパの再編……165
- 3 南北アメリカの発展……171
- 4 19世紀欧米の文化……174

統治システムと宗教 ③  
近世・近代の信教統制と政教分離……177

## 【19世紀の世界】……178

## 第12章 アジア諸地域の動揺……180

- 1 西アジアの変容……180
- 2 南アジア・東南アジアの植民地化……182
- 3 東アジアの激動……185

第Ⅲ部 主題学習  
資料から読みとく歴史の世界……196

各部に特集「統治システムと宗教」を配置しました。

# 第Ⅳ部

第Ⅳ部概観……191

## 第13章 帝国主義とアジアの民族運動……192

- 1 帝国主義と列強の展開……192
- 2 世界分割と列強対立……197
- 3 アジア諸国の改革と民族運動……200

## 第14章 二つの世界大戦……207

- 1 第一次世界大戦とロシア革命……207
- 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国……211
- 3 アジア・アフリカ地域の民族運動……216
- 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略……221
- 5 第二次世界大戦……225

## 第15章 冷戦と第三世界の独立……231

- 1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立……231
- 2 冷戦の激化と西欧・日本の経済復興……236
- 3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り……239
- 4 石油危機と世界経済の再編……245

## 第16章 現在の世界……248

- 1 社会主義世界の変容とグローバル化……248
- 2 途上国の民主化と独裁政権の動揺……251
- 3 深刻化する貧困と地域紛争の激化……253
- 4 現代文明の諸相……256

統治システムと宗教 ④  
アメリカ合衆国と宗教……258

第Ⅳ部 主題学習  
資料を活用して探究する地球世界の課題……259

合計時数 112  
詳しいシラバス案はホームページをご覧ください。

世界史年表……260

索引……268

現代の世界(裏見返し)

計18テーマ

Column

- 古代ギリシア人の墓碑にみる死生観……22
- 東南アジアの海域世界……41
- 遊牧国家スキタイ……54
- 天使と悪魔……73
- カール大帝におくられた象……79
- スペインのユダヤ人……94
- 孫悟空と猪八戒……106
- タージ=マハルにみるイスラーム文明の柔軟さ……124
- 食卓革命……127
- ロシア皇帝ピョートル1世とサンクト=ペテルブルク……144
- 「標準化」の登場……153
- イタリアの南北問題とワールドカップ……167
- ペリーと江戸幕府の外交戦……188
- ハワイ併合と「アロハオエ」……199
- イラクの建国と国境線……220
- 「サウンド=オブ=ミュージック」……226
- ホー=チ=ミンの遺言……234
- 「多文化主義」社会の課題……257



ライン川が流れるスイスの景観



モンゴルの草原



タイのジャンク船



国際宇宙ステーションと地球

### 3 中国の古典文明

#### 東アジアの風土と人々

東アジアとは、現在の中国を中心に、朝鮮半島・日本などをふくむユーラシア大陸東部地域をいう。この地域の大部分は温暖で雨量も多い季節風(モンスーン)地帯にあり、古くから畑作・水田作などの農耕が発達した。一方、東アジアに隣接する北方の草原・砂漠地帯には遊牧で生活する人々が居住しており、彼らとの交易や戦争は、東アジアの農耕民の生活に大きな影響をあたえた。東アジアは、自然も多様で人口密度も高い地域であるが、漢字や儒教、仏教など共通の文化によって結ばれた世界を保ってきた。

#### 中国文明の発生

前6000年ころまでに、黄河流域ではアワ・ヒエなどの雑穀、長江流域では稲を中心とする農耕がはじまっていた。前5000～前4000年ころには、黄河中流域に、彩文土器(彩陶)を特色とする仰韶文化がおこった。同じころ、長江中・下流域でも、水田をともしなう集落がつくられていたことが明らかになった。前3千年紀になると、黄河下流域を中心に、黒色磨研土器(黒陶)を特色とする竜山文化が成立した。黒陶は長江下流域から遼東半島にまで分布しており、地域間の交流が緊密になっていたことを示している。



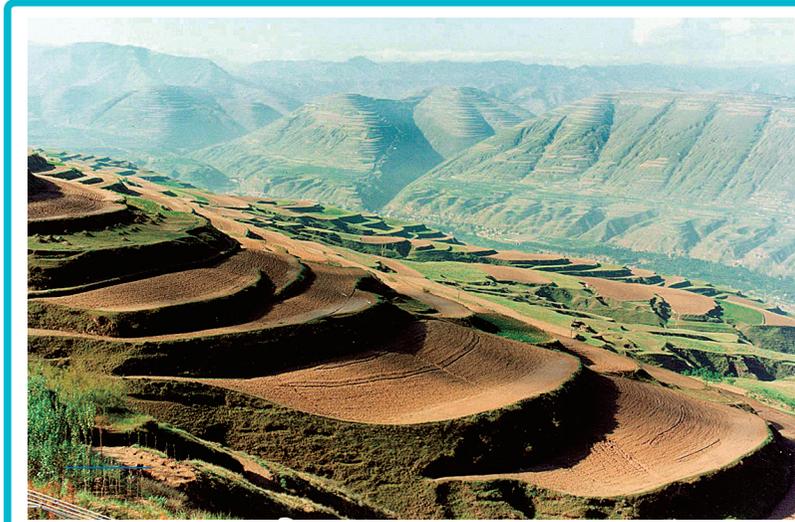
東アジアの地勢と中国文明

B5判を活かしたビジュアルなレイアウト



彩陶(上)と黒陶(下) 彩陶は素焼きの土器に文様をつけたもの。黒陶はより高温で焼き、ろくろを使用したために、薄手になったものである。

①千年紀は1000年を1単位とする時代区画。前3千年紀とは、前3000～前2001年のあいだをさす。



黄土地帯の段々畑 黄河流域は、内陸の高原・砂漠地帯から風によってこぼれた黄土の堆積した地域であることから、黄土地帯とよばれている。



甲骨文字の刻まれた獣骨 亀の甲や動物の骨を火であぶり、できたひび割れを利用して、その符号を刻み出した。

写真590点・地図100点以上！  
図版を豊富に掲載していますので、幅広く授業を展開していただけます。写真を大きくレイアウトし、視覚効果を高めました。

#### 初期王朝の形成

前3千年紀の黄河中・下流域では、ゆるやかな台地の上などに集落(邑)が散在していた。小集落は城壁でかこまれた都市国家へとしだいに成長し、やがてそれらを統合・支配する王朝国家が成立した。現在確認できる最古の王朝は殷(商)で、発掘された都(河南省安陽市)からは、甲骨文字を刻んだ大量の亀甲・獣骨や、王墓および宮殿跡が発見された。殷は、多くの邑が連合・従属する形で成立した国家で、王が神意を占って農事・戦争などの重要事項を決定する神権政治がおこなわれていた。漢字のもとである甲骨文字は古い記録に使われたものであり、出土した青銅器の多くも、神に対する祭りの際にもちいられた。

渭水流域に成立した周は殷に服属していたが、前11世紀ころ殷を倒し、鎬京(現在の西安付近)に都をおいた。周王は一族・功臣や各地の首長に領地(封土)をあたえて諸侯とし、軍役と貢納を課した。また王や諸侯につかえる卿・大夫・士とよばれる家臣にも地位と領地があたえられ、農民の支配がまかされた。このような周の統治のしかたを「封建」とよぶが、この統治制度は血縁関係を基礎としていたため氏族ごとのまとまりが重要であり、親族関係の秩序や祖先の祀りかたなどを定めた宗法がつくられた。

#### 春秋・戦国時代

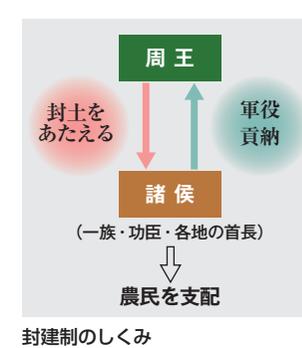
前8世紀に西方の遊牧民による攻撃を受けた周は、都を東方の洛邑(現在の洛陽)に移した。それ以後、周の勢力はおとろえ、前3世紀まで分裂と抗争の時代が

ゴチックは必要最低限にとどめ、おさえておきたい基本用語がわかるようにしました。

①伝説では、夏が中国最初の王朝とされるが、王朝の所在は確認されていない。



殷の青銅器 表面には、呪術的な力をもつとされる獣面の文様の浮き彫りがほどこされている。祭器としてもちいられた。



封建制のしくみ



ギリシアの哲学は熱心に研究され、合理的なスナ派の神学体系の樹立に貢献した。哲学の分野では他に、ともに医学者としても有名な**イブン=シーナー**(ラテン名アヴィケンナ)と**イブン=ルシュド**(ラテン名アヴェロエス)がいる。インドからも、数字・十進法・ゼロの概念がもたらされ、代数学と三角法が開発された

**イブン=シーナー 980~1037**

あらゆる学問にひいでた、中央アジア、ブハラ出身の知識人・学者。彼がある王子の病気治療をたのまれたとき、問診と脈拍の乱れから王子がある娘に恋をしていることを見ぬき、娘を見舞いに来させて王子の病気を治したという逸話が残る。



マリ共和国の切手にえがかれたイブン=シーナー

①彼は数学・天文学にもすぐれ、正確な太陽暦の作成にも関わった。

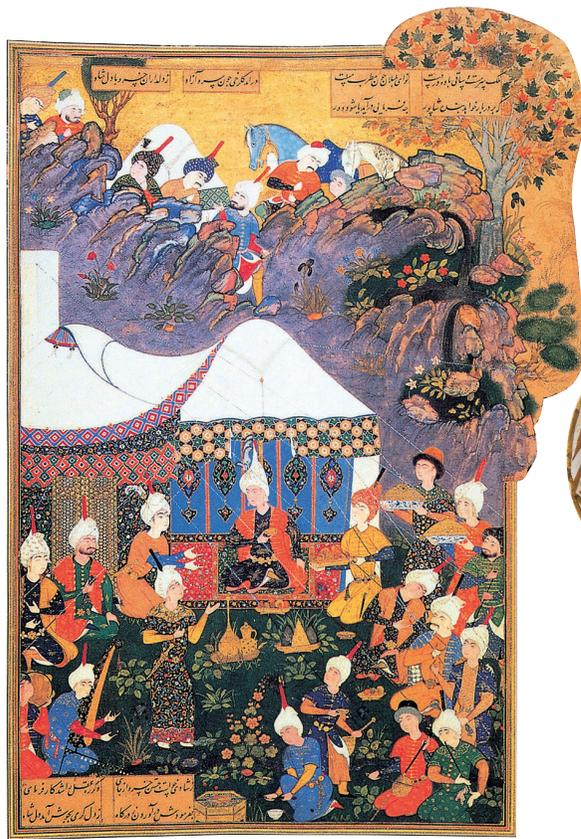
「人物コラム」では109人を紹介しています。人物の詳しい情報やエピソードも交え、生徒の興味を引き出します。

**学習意欲を高める興味深いコラム**

**ウマル=ハイヤーム**はペルシア語の詩集『ルバイヤート』を著した。説話文学も数多く書かれ、インド・イラン・アラビア・ギリシアなどの説話を集大成した『千夜一夜物語』(『アラビアン=ナイト』)がまとめられた。メッカ巡礼記を中心とする旅の文学もさかんで、**イブン=バットゥータ**はモロッコから中国を旅して、口述筆記による『旅行記』(『三大陸周遊記』)を残した。

美術・工芸の分野では、唐草文や文字を図案化した**アラベスク**という装飾文様や、繊細な**細密画**(ミニアチュール)が発達した。

ミニアチュール モンゴル帝国の拡大によって中国の水墨画がイスラーム世界に伝えられ、画法が発達した。図は、人やものをかさねてえがき、奥行きを示す独特な遠近法の例である。



**ラスター彩** 白地の上に金色にいろどられた文様が特徴。アッバース朝は経済的に繁栄したため通貨量が増大し、地金となる金・銀が不足する事態となった。そこで金銀器の製造が禁止されたが、人々の要望で金銀器によく似たラスター彩が開発された。



**アラベスク文様のランプ** マムルーク朝のスルタンのためにつくられたガラス製のランプ。14世紀なかばの製作。高さ35.5cm。

**Column**

**天使と悪魔**

キリスト教とイスラーム教は対立する異質な宗教という印象をもたれることがある。しかしイスラーム教はユダヤ教やキリスト教の影響を受けて成立したため、実は共通する要素を多くもつ「兄弟」のような宗教である。たとえば両宗教とも大天使ガブリエル(ジブリエル)が登場する。キリスト教ではイエスの「受胎」を聖母マリアに「告知」し、イスラーム教では預言



大天使ガブリエル(ジブリエル)

者ムハンマドに啓示をもたらす大天使である。一方、悪魔については、アラブの伝承では、天界にいたジンとよばれる聖霊・魔人の一人シャイターンが、神が創造したアダムに対してひざまづくことを拒否したため、天界を追放されたものとされ、キリスト教も同様に、悪魔ルシファーは、天界を追放された天使(墮天使)とされている。

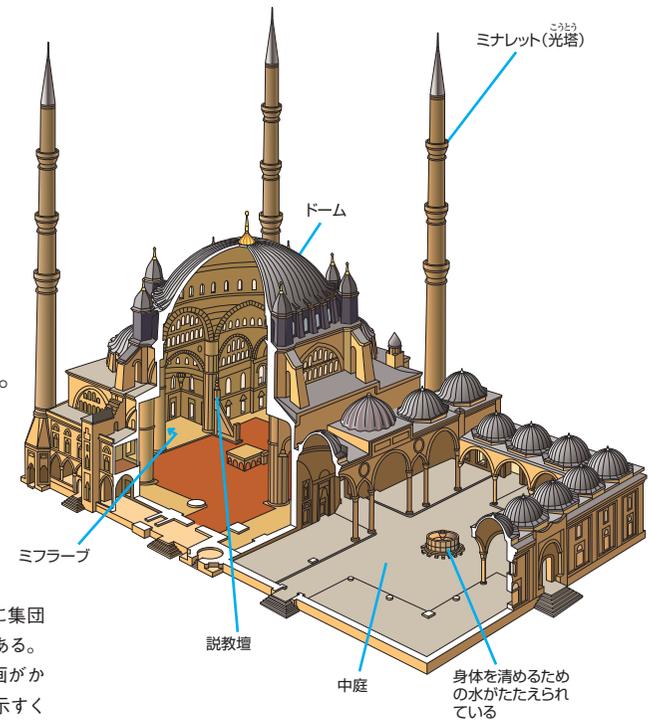
「コラム」は18テーマ取りあげました。死生観やサッカーなどを題材に、その時代の人々の考え方や生き方にふれられるようにしました。

**イスラームの社会**

イスラーム社会は都市を中心に発展した。各地の都市では、信仰・礼拝と学問・教育の場であるモスクや学院(マドラサ)、生産と流通の場である市場(スークあるいはバザール)を中心に生活が営まれた。そこではイスラーム法(シャリーア)が生活全般を規定していた。また遠隔の諸都市を結ぶ交通路が整備され、情報がすみやかに各地へ伝えられた。こうして、ヒトとモノの移動がさかんになることによって経済と文化は発展することとなった。

とくに紙の普及は、イスラーム文明の発展に大きな影響をおよぼした。中国から伝わった製紙法①の技術は、イスラーム世界からイベリア半島やシチリア島をへて、13世紀ころヨーロッパに伝えられた。

①751年、唐とアッバース朝とのタラス河畔の戦いの際に、唐軍の捕虜から伝わったとされる。



**モスクの構造** イスラーム教徒は金曜日に集団礼拝をおこなうが、その礼拝堂がモスクである。偶像崇拝が禁止されているため、像や絵画がみられることはなく、壁にメッカの方向を示すくぼみ(ミフラーブ)がある。多くは中庭をもつ。

# 16世紀の世界

ヨーロッパ主導による  
「海の時代」の幕開け



アルマダの海戦(1588年) 総数は多いが旧式の船も混在するスペインの無敵艦隊(アルマダ)に対し、イギリス艦隊の船は動きが速く、射程の長い大砲を多く積んでいた。そのためイギリス軍は遠距離からの砲撃戦に徹した。



トウモロコシを収穫するアステカ人  
アメリカ大陸原産のトウモロコシは傾斜地でも栽培でき、ヨーロッパで知られていた穀物より悪条件でも生長したため、ヨーロッパやアフリカに広まった。



アメリカ大陸産の栽培植物  
アメリカ大陸から、ジャガイモ(左)・トウモロコシ(中央)・サツマイモ・トマト・落花生・カボチャ・タバコ(右)などがヨーロッパにもたらされ、生活文化に大きな影響をあたえた。



コロンブスのサンサルバドル島上陸  
15世紀末のこの「上陸」以降、アメリカ大陸から大量の銀がもたらされ、16世紀にスペインは「海洋帝国」として繁栄することとなった。

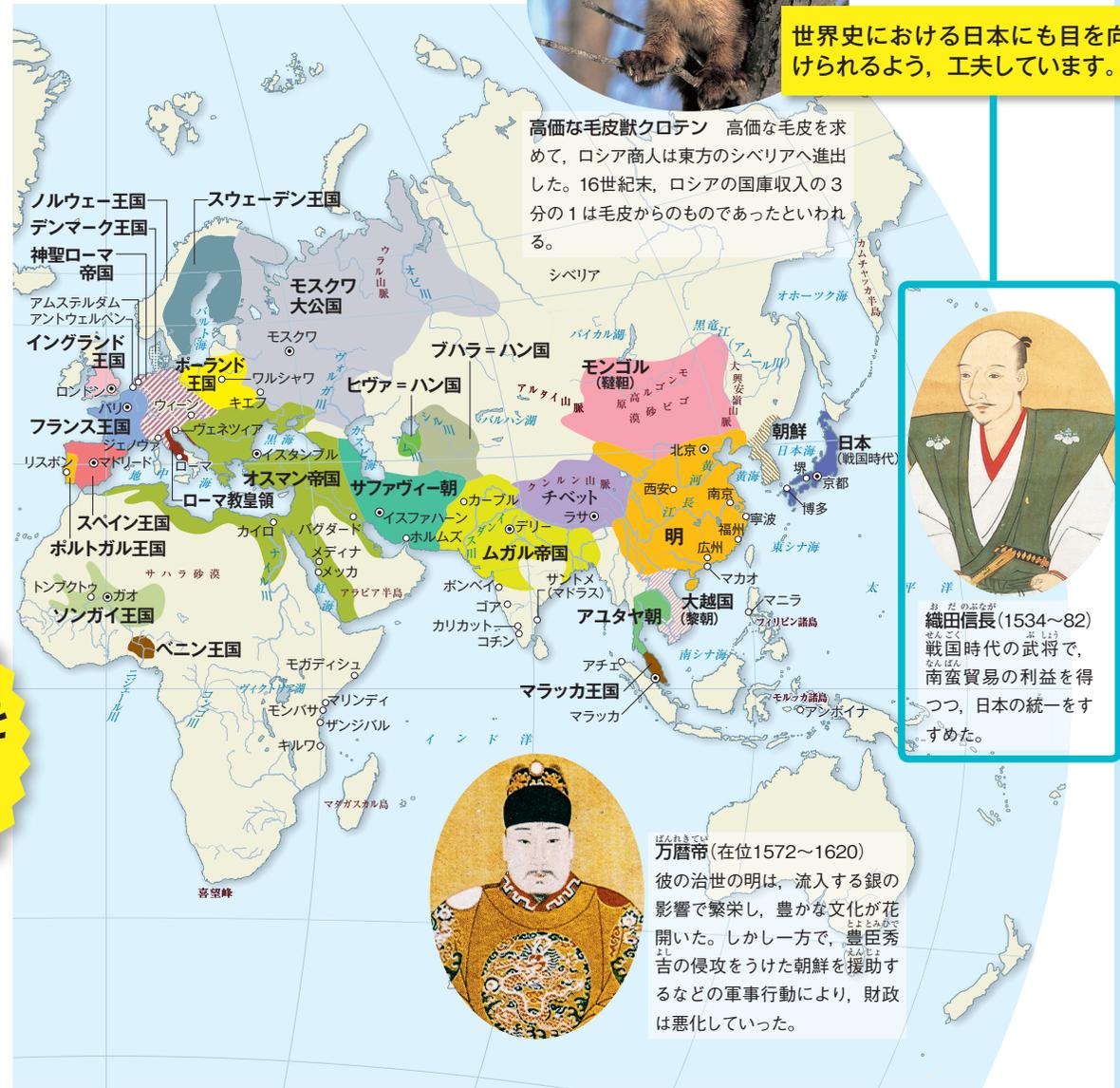


視点を  
変えて世  
とらえ  
特集へ

ダイナミックに横のつながりが理解できるよう、「同時代史」地図を収録しています。2・8・13世紀に加え、改訂版では16・19世紀を増補しました。

16世紀、アジアには3つの帝国が繁栄していた。東アジアでは、14世紀後半に成立した明が自国を中心とした朝貢体制を成立させていたが、中国産品を求める周辺諸国の人々は、明の貿易制限の打破をこころみていた。南アジアでは、ティムールの子孫が北インドに侵入してムガル帝国をたてた。イスラーム教徒主体のムガル帝国に対し、南インドにはヒンドゥー教の国家が成立して、

インド洋交易で繁栄した。西アジアでは、すでに14世紀なかばからバルカン半島へ進出していたオスマン帝国が、16世紀には地中海の制海権をにぎるなど、全盛期を迎えていた。オスマン帝国の圧力に対し、ヨーロッパ人は新航路の開拓へ乗り出した。ポルトガルはアフリカ沿岸部とインドに、スペインは大西洋を横断してアメリカ大陸に進出した。さらにスペインは太平洋を横断して、アメリカ大



世界史における日本にも目を向けられるよう、工夫しています。

高価な毛皮獣クロテン 高価な毛皮を求めて、ロシア商人は東方のシベリアへ進出した。16世紀末、ロシアの国庫収入の3分の1は毛皮からのものであったといわれる。



織田信長(1534~82)  
戦国時代の武将で、南蛮貿易の利益を得つつ、日本の統一をすすめた。



万曆帝(在位1572~1620)  
彼の治世の明は、流入する銀の影響で繁栄し、豊かな文化が開いた。しかし一方で、豊臣秀吉の侵攻をうけた朝鮮を援助するなどの軍事行動により、財政は悪化していった。

陸産の銀を東南アジアに運び、そこで現地の交易に参加した。こうして大西洋・インド洋・太平洋の交易ルートがつながったことで、地球規模の交易網が成立し、遠隔地の商品もたらされて人々の生活を豊かにした。その後、ヨーロッパ経済の中心は、ポルトガル・スペインから、オランダ・イギリスに移っていった。またユーラシアの内陸部では、ロシアがシベリア開発を進めていった。

こうして「世界の一体化」が進むと、その動きは世界的規模の分業体制の形成をうながした。大西洋に面した西ヨーロッパでは商工業がさかんと一方、東ヨーロッパは穀物や木材の供給地となっていった。奴隷貿易によって成人層がうばわれたアフリカは経済の停滞に苦しみ、ラテンアメリカでは先住民の人口が激減したため、黒人奴隷を用いた大農園がさかんとっていった。

●アメリカ合衆国と宗教●

1990年ころより、情報通信技術の革新(IT革命)と歩調をあわせるように、世界最大の経済大国であるアメリカ合衆国を中心にグローバル化が進行してきた。グローバル化は文化にもおよび、その文化的営みには、宗教が関係していることも多い。

宗教と政治・統治者との関わりについては、「統治システムと宗教③」のヨーロッパ諸国の近世から近代において、統治者による信教の強制から、政教分離と個人の信教の自由に移ってきたことが理解できるだろう。それではグローバル化の中心的存在であるアメリカ合衆国では、宗教は政治や個人とどのように関わっているのだろうか。

私たちは、4年に1度、1月20日前後に、聖書に手をおいて宣誓するアメリカ大統領就任式の様子を、テレビ画面をとおして見ることが出来る。この場面だけから判断すると、アメリカ合衆国はキリスト教を国教とする政教一致の国だと思いがちになる。



アメリカのオバマ大統領の就任式(2009年1月20日)

1776年に独立を宣言し、アメリカ合衆国を形成した北米13州では、イギリスから移住してきたピューリタンの活動が大きな役割を果たした。しかし、アメリカ合衆国は歴史上、「最初に国教制度を憲法で否定し、個人の信教の自由を保障した」国である。

同時にアメリカ合衆国は世界各地から移住してきた人々によって構成されてきたため、「宗教的信条のうえに政体をうちたて、国家を統一する」こともかかげられてきた。これは政教分離と矛盾するように思われるが、政教分離にあたる英語は「Separation of Church and State」(教会と国家の分離)であって、「Separation of Politics and Religion」(政治と宗教の分離)ではない。

多様な宗教を信仰する人々からなるアメリカ合衆国で、2008年には全宗教人口のうち約51%がプロテスタント、約24%がカトリックと、キリスト教徒だけで2億人をこえている。国教制度は憲法で否定されているが、キリスト教(『聖書』を共通項としてユダヤ教をふくむ場合もある)を「市民宗教」、あるいは「みえない国教」とする見方がある。

しばしばおこるイスラーム諸国との対立には、アメリカ社会の宗教的な背景も一因と考えられることを思いおこしてみよう。他方、近年はイスラーム圏からの移民も増加しており、それがアメリカとイスラーム諸国との関係にどのように影響するかも注目される。

特集「統治システムと宗教」では政治と宗教をテーマに視点を変えて歴史をとらえられるようにしました。古代、中世、近世・近代、現代の4つの時代を通して政治と宗教の関係を考えます。

第IV部 主題学習

資料を活用して探究する地球世界の課題

現在の地球には、自然環境、紛争、食料・人口、資源・エネルギーの問題など、人類の生存をおびやかす多くの課題が山積している。第IV部の主題学習では資料を活用し、問題を究る作業をおこなってみよう。

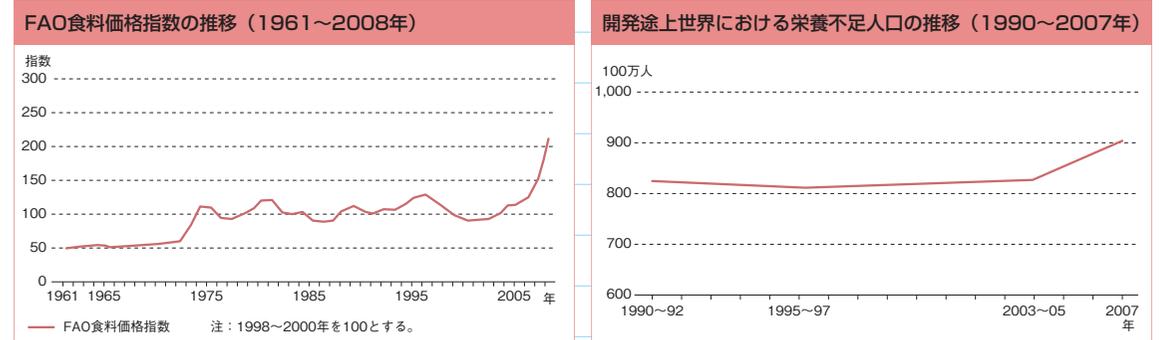
主題学習では「探究のポイント」と「ワーク」を具体的に示し、生徒の歴史的思考力を養います。

探究のポイント 資料を活用するために

- 現代社会の課題はグラフや表であらわされることが多い。第III部の主題学習で学んだ資料から読みとく方法を確認し、統計資料を正確に読みとって判断する力を身につけよう。
- 現在の課題が歴史的にどのように形成されてきたか、また、その課題解決に日本がどのように貢献できるかという視点を忘れないようにしよう。

ワーク 世界の食料危機——飢餓人口の増大

飢餓はいまだに人類の死亡原因の第1位であり、現在も世界中で約9億人もの人々が飢餓状態にある。食料危機は人口増大のすすむ人類がかかえる無視できない地球的課題である。つぎの二つのグラフは、「食料価格指数の推移」と「開発途上世界における栄養不足人口の推移」を示したものである。この資料から、過去数年で飢餓状態の人口が7500万人も増加した理由を考察してみよう。

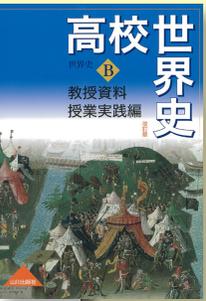


\*グラフは、国際連合食糧農業機関(FAO)編集「世界の食料不安の現状 2008年報告」(2010年3月1日翻訳・発行)より



- 問①「食料価格指数の推移」と「栄養不足人口の推移」のグラフはどのような相関関係にあるのだろうか。また、食料価格高騰の大きな原因はなんだろうか。
- 問②2011年8月の国際連合食糧農業機関(FAO)の最新統計では、アフリカのサハラ砂漠以南の国々が、栄養不良の深刻な上位10カ国中9カ国を占めている。なぜこの地域に集中しているのか。その理由も考察してみよう。また統計から現在の課題をさぐり、その解決に取り組む方法などを考えてみよう。

「主題学習」には問いを設け、より深い学習に対応できるようにしています。



板書例は、教科書の記述に沿って前後関係もわかりやすくまとめています。プリント作成などにもアレンジしていただきやすい形になっています。

授業を理解する上で重要と思われる**発問例**を設けました。**解答例**も示しています。

授業展開の柱となる、**単元の重要ポイント**を箇条書きで挙げ、**対応する本文**に**下線**を付しています。

図版・地図には**歴史的背景**や**読図のポイント**について解説を付しています。

## 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 3 西ヨーロッパ中世世界の姿容

(研究編p.156~158)

### 38 中世都市・教皇権の衰退

(((((((((((((((( 指導上の留意点 ))))))))))))))

- ①有力な自治都市は共通の利害のために都市同盟を結成した。
- ②中世都市の自治運営の基礎になった組織は、ギルドと呼ばれる同業組合であった。
- ③貨幣経済の広がりや農村の人口激減によって身分的な束縛がゆるみ、自営農民が成長していった。
- ④国王は都市の市民と協力して諸侯をおさえ、近代的な中央集権国家をめざすようになった。

**発問例** ①ギルドは組合員の利益を守るためにどのような規制をしたのだろうか。

**解答例** 自由な価格競争を禁止し、商品の品質・規格・価格などを統制するなどして、市場の独占をはかった。ただし、このような規制は経済・技術の自由な発展を妨げる面もあった。

#### 図版 中世都市

図版左のネルトリンゲン(ドイツ)はドイツのバイエルン州にあり、1290年に自治都市(帝国都市)となった。環状につくられた市壁は歩行も可能で、町の中心には鐘楼を持つ聖ゲオルク聖堂が見える。一方、図版右、1358年にハンザ同盟に参加した自治都市ブレーメンの市庁舎はゴシック様式とルネサンス様式が混在する個性的な建築であり、世界遺産に指定されている。広場に立つ手前左の石像は町の守護神であるローラント(ローラン)である。

#### 図版 親方と弟子

職人や徒弟は親方の家に同居し、住込みで働くのが原則であった。その都市における親方株の教には制限があり、遍歴をくり返したり、一定の期間を職人として勤めた者が本図のようにマスターピース(親方作品)を作製し、審査に合格した者が組合加入などを納入して親方になった。しかし現実には親方の子弟や婿が優先され、一般の職人にとって親方への道は厳しかった。

#### 図版 ユダヤ人の迫害

中世後期の危機の時代、黒死病や麦角症(「聖アントニウスの火に焼かれる病」として恐れられた)などの疫病、気候変動やイナゴの被害などによる穀物の不作、また、為政者が権力闘争に都市の市民を利用するというような様々な理由から、ユダヤ人はしばしば大規模な迫害を受けた。本図はユダヤ人がドイツの都市ニュルンベルクで焼き殺される場面をあらわしたものである。この事件ではユダヤ人に対する借財や負債が棒引きにされたことから、虐殺が為政者の政治的な思惑、キリスト教徒の美利やカタルシスといった理由から行われていたことがわかる。「ニュルンベルク年代記」より。

116

#### 板書例

##### ② 中世都市の成立と市民たち

###### ① 自治都市と都市同盟

西ヨーロッパの中世都市…封建領主(皇帝・国王、諸侯・司教)の支配  
…11~12世紀以降の経済力の高まり→自治権獲得→自治都市  
都市同盟の結成…共通の利害のために同盟を結成  
〔北イタリア：ロンバルディア同盟〕→大きな政治勢力へ発展  
〔北ドイツ諸都市：ハンザ同盟〕

###### ② 自治都市の特色とギルド

特色 〔周囲を城壁でかこむ…領主の介入を防ぐため〕

〔広場・時計台・自治の中心としての市庁舎などの建設〕

ギルド(同業組合)…自治の中心組織

〔商人ギルド…大商人中心→初期に市政へ参加〕

〔同職ギルド…手工業者の組合→市政へ参加〕

ギルドの特色 〔組合員=親方(経営者)に限定〕

〔厳しい身分序列…親方とそこで働く職人・徒弟〕

〔自由競争を禁止、商品の品質・価格などを規制…お互いの利益を守る〕



中世都市 左はドイツにあるネルトリンゲン、城壁でかこまれた典型的な中世都市である。右は北ドイツにあるブレーメンの市庁舎。市庁舎やギルドの館は、都市の中心である広場をかこむように建てられた。



#### 中世都市の成立と市民たち

経済力を高めた西ヨーロッパの中世都市は、11~12世紀以降、皇帝や国王、諸侯や司教といった封建領主からつきつぎに自治権を獲得し、自治都市になった。有力な都市は、北イタリアのロンバルディア同盟や北ドイツ諸都市のハンザ同盟のように、共通の利害のために都市同盟を結成し、大きな政治勢力になった。

これらの自治都市は、外部勢力の侵入や領主の介入を防ぐために周囲を城壁でかこみ、広場や時計台とともに自治の中心として市庁舎をたてた。自治をおこなう中心となった組織が、ギルドとよばれる同業組合である。職種別の同職ギルドの組合員は、経営者である親方(マスター)に限られ、そこで働く職人や徒弟とのあいだにはきびしい身分序列があった。

①ギルドは、自由な競争を禁止し、商品の品質や価格などをこまかく定めて、たがいの利益をまもった。

上層市民のなかからは、アウクスブルクのフッガー家のようにその資金力で皇帝の地位を左右したり、フィレンツェのメディチ家のように一族から教皇を出す富豪もあらわれた。一方、都市でも商業・金融業を営んだユダヤ人をはじめとする社会的少数派の人々は、飢饉・疫病・戦乱により社会不安が高まると、しばしば激しい迫害を受けた。

#### 封建社会の衰退

貨幣経済が広まるにしたがって、14世紀ころから自給自足の封建社会の



親方と弟子 右(左)と右(右)の職人が親方(中央)から資格の審査を受けている場面。職人たちは道徳をかかぬて職を継いだ。

②当初は大商人を中心とした商人ギルドが市政をきっていたが、手工業者が同職ギルドをつくり、市政へ参加していた。



ユダヤ人の迫害 14世紀なかばに迫害をうけて焼き殺されるユダヤ人。

#### 板書例

##### ③ 上層市民と社会的少数派の人々

大富豪 〔アウクスブルク：フッガー家…資金力で皇帝の地位を左右〕  
〔フィレンツェ：メディチ家…一族から教皇を出す〕  
社会的少数派…都市でも商業・金融業を営んだユダヤ人などの人々  
→飢饉・疫病・戦乱による社会不安の増大→しばしば激しい迫害をうける

##### ④ 封建社会の衰退

###### ① 封建社会の崩壊

原因…14世紀ころからの貨幣経済の拡大

経過 〔貨幣を入手したい領主…賦役から生産物・貨幣で地代をおさめるように変化〕  
〔農民…おさめた残りの貨幣を貯蓄→経済力向上〕

変化 〔農村の人口激減、寒冷化による凶作や飢饉、黒死病の流行〕  
→領主、労働力確保のため農民の待遇改善をせまられる  
身分的な束縛がゆるむ→西欧で農民の地位向上：自営農民に成長

###### ② 封建的主従関係の解体と近代的中央集権国家へのあゆみ

経済的に苦しくなった領主→ふたたび農民への束縛を強める  
→農民の抵抗・大規模な農民一揆の発生

フランス…ジャックリーの乱、イギリス…ワット=タイラーの乱

国王…成長してきた都市の市民と協力して諸侯の力をおさえ、中央集権をめざす

→諸侯・騎士…国王の宮廷につかえる廷臣化・地主化

中小領主=騎士…火砲の普及による戦術の変化→没落が著しい

→封建社会の政治体制が解体、近代的な中央集権国家へのあゆみを開始



黒死病の流行 この病により、当時のヨーロッパの人口の3分の1が死亡したと考えられている。図は死者を埋葬する人々。

しくみはしだいにくずれていった。貨幣を手に入れた領主は、賦役をやめて地代を生産物や貨幣でおさめさせるようになり、農民はおさめた残りの貨幣をたくわえて経済的に力をつけていった。また、気候の寒冷化にともなう凶作や飢饉、黒死病(ペスト)の流行などで農村の人口が激減すると、領主は労働力を確保するために農民の待遇の改善をせまられた。その結果、さまざまな身分的な束縛はゆるめられ、西ヨーロッパでは多くの農民が地位を向上させて自営農民に成長していった。

やがて経済的に苦しくなった領主がふたたび農民への束縛を強めようとする。農民たちはこれに抵抗し、各地で大規模な農民一揆をおこした。14世紀後半のフランス…ジャックリーの乱、イギリスのワット=タイラーの乱がその代表的なものである。

一方、支配者階級の結びつきであった封建的主従関係もしだいにくずれていった。④国王は成長してきた都市の市民たちと協力して諸侯の力をおさえ、中央集権を強めようとした。諸侯や騎士はしだいに国王の宮廷につかえる廷臣となり、領地では農民から地代をとりにて中だけの地主となっていった。とくに中小領主である騎士は火砲の普及による戦術の変化も加わって、没落が著しかった。封建社会の政治体制は解体に向かい、各



ワット=タイラーの乱 乱の指導者ジョン=ボール(中央馬上)は「アダムが神に似ているが、だれが貴族だったか」と問い身分制度を批判した。左半の人物がワット=タイラー。

3 西ヨーロッパ中世世界の姿容 91

#### 図版 黒死病の流行

近年の研究ではヨーロッパの地域によっては50%を超える死亡率であったと分析されており、イギリスでは平均寿命が1348年の25歳から、1376年には17歳に激減した。黒死病の流行は「メント=モリ(死を想え)」という言葉とともにヨーロッパの人々の人生観に多大な影響を与えた。本図の死者を埋葬する家族を描いた絵はシル=リ=ミュイジスの「トゥルネのベスト年代記」の挿絵。ブリュッセル、国立アルベール1世図書館蔵。

#### 解説 黒死病(ペスト)

ペストにはおもにネズミから伝染する腺ペストと細菌による肺ペストの2種類がある。腺ペストは2~6日の潜伏期間の後に突然の高熱とリンパ腺の腫れ、激痛がはじまり、意識障害や循環器障害が起こって敗血症をきたし、ショック死に至ることも多い。発病後3日目頃に体の柔らかいところを中心に黒ずんだ出血性の紫斑や膿疱があらわれるのが特徴で、これが「黒死病」と呼ばれる所以である。腺ペストの経過中に菌血症から肺炎を併発したものが肺ペストで、激しい咳と呼吸困難、肺水腫や心不全を引き起こして数日で死亡する可能性が高い。患者から直接目には見えない菌で伝染する肺ペストは、当時のヨーロッパの人々を恐怖に陥れた。

#### 解説 ジャックリーの乱

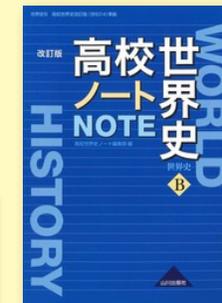
ジャックリーの名称は、フランス貴族の農民に対する蔑称「ジャック」に由来するが、暴動を起こしたのは恵まれない最下層の農民ではなく、百年戦争の戦乱の中で不公平な税を押しつけられた「失うものがある」農民や都市市民であった。このような動きはフィンランディアのチョンピの乱やフランスのジャコブの乱などに広がった。(『ヨーロッパの歴史』東京書籍参照)

#### 図版 ワット=タイラーの乱

キャプジョンにあるように反乱のリーダー二人が、ロンドンに入る門の前で支持者とともに合流しているところ。2万人以上が集まったブラックヒースでの説教において、ジョン=ボールはこの有名な言葉の後に、「すべての人間は生来、平等である。農奴制は神の意志に反し、悪悪な人々の不正な専横により導入されたものだ……民衆は王国の大貴族、法律家、裁判官たちを殺し、将来の共和制に有害なこれらの人々を根絶すべし」と続け、民衆を感激させた。ワット=タイラーは驕り討ちで暗殺され、ボールは逮捕、処刑された。「フロワサル年代記」(15世紀後半)挿絵。パリ、フランス国立図書館蔵。(『世界史史料5』岩波書店参照)

117

特におさえておきたい用語には、本文に赤囲みをして解説を付しています。



## 第16章 現在の世界

### 1 社会主義世界の変容とグローバル化 p.248~251

#### ① 東欧の民主化

##### ① 東ヨーロッパ諸国の民主化(1989年)

ソ連のゴルバチョフ…1988年、東ヨーロッパ社会主義圏への内政干渉否定を宣言

ポーランド…1980年、ワレサを指導者とする自主管理労組「<sup>(1)</sup>」が改革を要求

1989年、複数政党制による選挙→「<sup>(2)</sup>」中心の連立政権が成立

ハンガリー・チェコスロヴァキア…1989年、複数政党制へ→共産党単独政権が崩壊

東ヨーロッパ諸国の変容…多くの国で平和的に<sup>(2)</sup>体制が崩壊

→議会制民主主義と<sup>(3)</sup>に移行

ルーマニア…1989年、反体制運動が勝利→<sup>(4)</sup>の独裁体制が崩壊

##### ② 東欧社会主義圏の統一と東欧社会主義圏の消滅

1989年10月、東ドイツでホネカー書記長が退陣→11月、<sup>(5)</sup>を開放

1990年10月、西ドイツが東ドイツを吸収→<sup>(6)</sup>が実現

東欧社会主義圏の消滅…1991年、<sup>(7)</sup>や<sup>(8)</sup>が解消

#### ② ソ連邦とユーゴスラヴィア連邦の解体

##### ① ソ連邦の解体

ゴルバチョフ…複数候補者制での選挙→1990年、<sup>(9)</sup>制を導入して就任

経済面では、計画経済から<sup>(3)</sup>への移行を開始

東ヨーロッパの影響…バルト3国などで独立運動がはじまる

保守派クーデタの失敗…1991年8月、多くの共和国が連邦からの離脱を宣言→ソ連共産党も解散

ソ連邦の解体…1991年12月、ロシア連邦大統領<sup>(10)</sup>を中心に、ウクライナ・ベラルーシなど11共和国が<sup>(11)</sup>(CIS)を結成

##### ② 独立国家共同体(CIS)

各共和国…自立傾向を強める→しかし、ロシアの石油・天然ガスに依存する国も多い

ロシア…1994年、北カフカス地域の<sup>(12)</sup>で民族紛争が起ころ、現在も継続

2000年、<sup>(13)</sup>が大統領に就任→資源輸出などによる経済成長を実現

2012年、<sup>(13)</sup>が大統領に再任→「強いロシア」の再建をとる

##### ③ ユーゴスラヴィア連邦の解体

内戦開始…1991年、<sup>(14)</sup>とスロヴェニアが独立宣言→これをきっかけに内戦はボスニア=ヘルツェゴヴィナ共和国や<sup>(15)</sup>自治州にも拡大

旧ユーゴスラヴィア連邦の解体…2006年、新ユーゴスラヴィアから<sup>(16)</sup>が独立

→六つの国に解体

#### ③ 通商の自由化と地域統合の進展

##### ① 世界貿易機関(WTO)の成立

通商の障壁…農産物、流通・運輸・金融、知的所有権などの分野

上記の分野の関税引き下げ交渉を開始(1986年)→

1995年、<sup>(17)</sup>(WTO)が発足

教科書の記述に沿って前後関係もわかりやすくまとめています。教授資料授業実践編の板書例と対応していますので、授業進行に便利です。

教科書のゴチックを中心に重要語句を空欄にしています。答えやすいよう、人名は[ ], 事項は( )で表しています。

#### ② 地域統合の進展

EC諸国…1985年、商品・ヒトの移動、金融取引の加盟国内自由化へ

1993年、<sup>(18)</sup>条約が発効→<sup>(19)</sup>(EU)が発足

1999年、決済通貨として<sup>(20)</sup>を導入→2002年、一般取引にも使用開始

2011年、ギリシアなど南欧諸国で財政危機が発生→<sup>(20)</sup>問題が表面化

アメリカ…1994年、カナダ・メキシコと<sup>(21)</sup>(NAFTA)を発足させる

アジア太平洋地域…1989年、<sup>(22)</sup>(APEC)を開催

G20の発足…2008年、国際金融危機発生後、G8にインド・中国など新興有力国を加えて開催

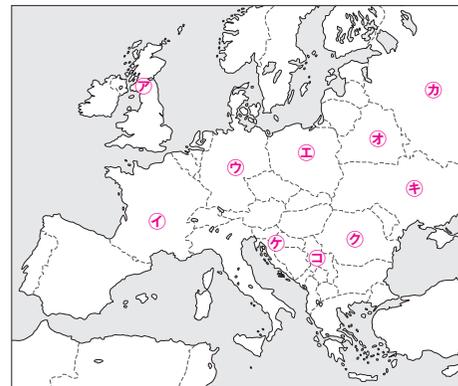
#### ③ グローバル化の影響

<sup>(23)</sup>化…情報通信手段の革新→貿易・金融などが世界規模で自由な流通へ

生じた問題点…土地・原料・資本で投機的動き→2008年に深刻な国際金融危機が発生

#### Check

以下の問1~6に該当する国名および地図中の記号を答えなさい。



問1. 1989年に「ベルリンの壁」が開放され、90年に統一が実現した国はどこか。

国名( ) 記号( )

問2. 1980年に自主管理労組「連帯」が組織された国はどこか。

国名( ) 記号( )

問3. 1989年の民主革命でチャウシェスク独裁政権が打倒された国はどこか。

国名( ) 記号( )

問4. 1991年にエリツィンが大統領となり、CIS設立の中心となった国はどこか。

国名( ) 記号( )

問5. 1991年に問4の国とともにCIS樹立の中心となった二つの共和国はどこどこか。

国名( ) 記号( ) 国名( ) 記号( )

問6. 1990年代に旧ユーゴスラヴィア内戦の始まりとなった独立宣言を出した国は、スロヴェニアと もう一つはどこか。

国名( ) 記号( )

右ページには地図や図版を使った設問を設け、理解を深めます。

ノートをご採用いただきますと、解答入りのPDFデータをサービスでお付けいたします。





# 世界史教授資料 研究編 (世界史教科書共通)

B5判・498頁 本体6000円(税別)

山川出版社のすべての世界史教科書に共通してご使用いただけます。大きいテーマを扱う「基本考察」、各用語ごとの「用語解説」、その他「エピソード」「参考文献」を『詳説世界史』の配列にしたがって古代から現代まで網羅した、世界史の先生方に必携の一冊です。



興味あるエピソード、史話、史料などを挿入して生徒の関心を高め、授業をより効果的かつ変化のあるものとするための一助としました。

## 3 中国の古典文明

### 基本考察 東アジアの風土と人々

東アジアは地球上最大の陸塊であるユーラシア大陸と最大の海洋である太平洋が接する所である。ただし、北アジア・東南アジア・中央アジアと重なり合う部分を持ち、地域的に限定することは容易ではない。そもそも地域は問題関心によって設定される一面を持つものであり、教科書に記す地域は、あくまで一つの歴史的なとらえ方であるにすぎない。つまり、「東アジア」という言葉そのものに明確な定義はないのであり、中国語にも東アジアに似た「東亜」という言葉はあるものの、その定義もまちまちである。にもかかわらず、日本の歴史学の世界でしばしば中国・朝鮮・日本・ベトナム北部を指して東アジアというのは、この地域が気候や風土に共通性を持つほか、文化的な共通点を多く有すると考えるからである。

中国の国土は広大であり、その風土も多様である。その地勢は、大局的に見れば西高東低をなしており、西南のチベット高原を最高部となし、その北と東に広がるタリム・ジュンガル・四川の諸盆地、モンゴル・黄土・雲貴の諸高原が第2段目を構成する。そしてその東方に広がる平野と丘陵からなる地域が第3段目をなす。今日の中国でしばしば経済格差の問題として、沿海部と内陸部が対比されるが、今日の中国の経済と文化をリードする沿海部とは、広くはこの東部の平野と丘陵からなる地域を指している。

中国では西高東低の地勢により、多くの河川は西から東へと流れて海に注ぐ。そして、これらの河川を境として、中国東部はさらにいくつかの地域に分けられる。北からいうと、渤海に注ぐ遼河を境とする遼東と遼西地域、黄河を境とする河北と河南地域、長江を境とする江北と江南地域、東南丘陵部を流れ台湾海峡に注ぐ閩江を境とする閩北と閩南地域、珠江河口の広州を境とする広東と広西地域などである。

北は雨量が少なく乾燥しがちで寒気が厳しいのに対し、南は雨量も多く温暖湿潤である。「南船北馬」という表現もあるように、主として北では陸運、南では水運が用いられた。これは中国内地における北と南の自然条件の違いを反映している。秦嶺山脈と淮河を結ぶ線は、ほぼ1000mmの等雨量線と一致し、かつては小麦と水稻の作付けの境界線とされてきた。北ではアワ・コーリャン・麦・豆を中心とする黄土での畑作が主であり、牧畜も盛んである。一方南では水田耕作が主流であり、二期作が可能な地域もある。

中国の遼西地域の西には長白山(白頭山)脈が連なり、白頭山脈から黄海に鴨緑江が注ぐ。この白頭山と鴨緑江に隔てられて朝鮮半島がある。朝鮮は咸鏡山脈を頂点に北西へ緩斜面が広がる北部と、太白山脈を頂点に西側に広い緩斜面を形成する南部に大別される。気候は温帯に属するが、6～9月に全体の3分の2以上の降水がかたよっており、とくに冬の乾燥は厳しい。この気象条件の克服が長い間農業の課題であったが、朝鮮王朝時代には二毛作や米の運作が可能となるに至った。

朝鮮史を考える際によく強調されるのは、常に中国および北アジアの諸民族の圧力にさらされてきたことである。しかし、朝鮮の歴史や文化はそれらの影響によって他律的に形作られてきたのでは決してなく、むしろ東アジアの情勢に応じて、中国などの先進的な文化を取り入れつつそれに独自の内容を盛り込むことによって発展してきた。高麗で布かれていた郡県制が郡と県の関係や県の支配のあり方などの点で中国と全く異なっており、当時の社会状況を踏まえた独特なものであったことなどがその好例であろう。

また朝鮮と中国東北部が歴史的に密接な関係にあることも重要である。現在、朝鮮人は朝鮮半島だけでなく、白頭山北側の中国東北部にも多数居住している。朝鮮からは間島と呼ばれるこの地域に現在居住している朝鮮人は、日本による韓国併合以後に移り住んだ人々の子孫がほとんどであるが、朝鮮王朝時代にも移住は行われており、さらに遼れば朝鮮三国の一つに数えられる高句麗やその後裔たる渤海はここから現在の沿海州にかけての地域を支配していた。歴史的な意味での朝鮮は、現在の南北朝鮮の領域だけでなく中国東北部をも視野に入れて考える必要があろう。

一方、中国南部の広西地域は、雲貴高原を挟んでベトナム北部に連なる。気候的にはモンスーンの影響を受け、乾期と雨期に分かれる。雲貴高原からトンキン湾に注ぐホン河(紅河)の河口の平野部には早くから農耕文化や青銅器文化が発達した。紀元前4世紀頃に始まるドンソン文化は雲南やタイ東北部との交渉を通じて多くの文化的要素を取り入れた文化であった。ドンソン文化の銅鏡は、中国南部から東南アジア各地に広がっており、その影響が広くおよんだことを示している。

ベトナム北部の中心地であるハノイには、7世紀には唐の安南都護府がおかれ中国の直接統治を受けた。このため、かつては中国の長期支配から脱した10世紀以降の諸王朝も中国を模した王朝であったとする見方が強かった。しかし、今日では北部ベトナムの中国化は陳朝以後徐々に主体的に進んだと考えられるようになっている。

もともと北部ベトナムは中国と南方を結ぶ交易拠点であったが、15世紀以降大規模灌漑農業による農業発展をテコに海上交易の中心地の地位を得ていった。17世紀には中国沿海部都市の繁栄を受けて交易の時代を迎え、日本人町もあらわれるなど、東アジアの海上交易とも結びついてきた。

中国と朝鮮の沿海には大小合わせて約8300余の島々があるといわれる。日本列島は、これらユーラシア大陸と太平洋の間に広がる島嶼部の東に位置する。日本は古くからこれらの島々を介して大陸と人やものとの交流を行ってきた。例えば中世には、北海道・サハリンを経てユーラシア北部へ、また対馬・壹岐などを経て朝鮮・中国へ至る交通ルートができあがっており、日本列島各地の社会に大きな影響を与えていたことが知られている。さらに近代以降はアイヌや琉球人・朝鮮人も含めて日本社会が構成されていることを忘れてはならない。

東アジアの文化的特徴としておもなものをあげれば、漢字と漢語の使用、儒教の浸透、律令の整備、漢訳仏典を通じた

基本考察は、各時代・地域の基本概念を、歴史学の進展に対応する情報や研究動向を含めて叙述しています。

単なる歴史用語の解説ではなく、ポイントを絞った解説、授業に役立つ内容、最近の研究成果の紹介などを記しています。

巻末には、各テーマごとに日本語で読むことのできる参考文献をあげました。

**甲骨文字の発見** 清末に至って殷墟から獣骨の断片が多数出土し、はじめ竜骨として薬用に供されていた。1899年劉鶚(鉄雲)が友人王懿榮の病氣見舞いにこの竜骨を持参し、はからずもそれに文字のあることを発見して蒐集に努め、その一部を記録して『鉄雲蔵龜』という書物を著した。いわゆる甲骨文の収集と研究とはこれからおおいに盛んとなり、孫詒讓・羅振玉など中国の学者をはじめ、日本の林泰輔もこれに参加し、解説に努力した。この結果、これが現存する中国最古の記録で、殷代の占卜に用いられたものの遺品であることが明らかとなった。

なった。しかし亀甲占いは、弥生時代・古墳時代の日本に伝わり、その名残りが対馬や宮中に伝わっている。

**邑** 中国古代社会における集落の総称。甲骨文字では、「邑」字は土地・区画を示す「口」と、ひざまずく人を示す形の組み合わせからなっており、人間の居住する所、集落をあらわす。邑は本来はたんに集落全般を指していたようだが、防衛の必要などから周囲に防壁をめぐらし、その外側に耕作地を有する集落が一般的となったため、とくに防壁をめぐらした集落を邑と解するに至った。このような邑は各地に散在しており、それぞれの邑内では、人々が血縁関係を紐帯として氏族共同体を形成し、邑の外側に広がる耕作地で農耕を行っていた。邑の規模は大小様々であり、大きな邑は、殷墟で知られる大邑商のように、軍事的圧力と宗教的権威をもって多くの邑を従属させ、一種の連合国家を築いていた。従来は、一邑一族邑一属邑の3層構造をなすと考えられてきたが、近年考古学上の発見などにより、王城である所の大邑(数百ha)―大族邑(数十ha)―小族邑(数ha)―属邑という4層構造が考えられるようになってきている。こうした点に注目して当時の国家を「邑制国家」と呼ぶ。

**易姓革命** 王朝交替には禪譲と放伐の二つの形式があるが、易姓革命という場合は、とくに放伐(暴虐を働くなどして徳を失った君主を武力によって打倒し、新しい王朝を建てること)を指す。殷の湯王が、暴虐無道であった夏の桀王を武力で追放し、かわって天子の位についたのがその始まりとされる。背景には、天下は有徳者が天命を受けて統治すべきものである。つまり、天下は有徳者が天命を受けて統治すべきものである。つまり、天下は有徳者が天命を受けて統治すべきものである。つまり、天下は有徳者が天命を受けて統治すべきものである。

なお、禪譲は君主が生前に臣下の中でもっとも徳の高い者を後継者として指名し、平和裏に位を譲るというものであり、五帝の一人にあげられる堯が、その子息丹朱をさしおいて舜に位を譲ったのがその最初とされる。王朝交替のもっとも理屈的な方法とされ、王莽がこの形をとって即位したのをはじめてとして、魏の文帝以降、魏晉南北朝時代にさかに行われ

た。しかしこれらの禪譲は、ほぼ全て政治軍事の実権を完全に掌握した有力者に強要されて行ったものであり、禪譲後に前王朝の皇族が殺戮されることも珍しくなかった。宋代以降、禪譲は行われていない。

**封建** 周が殷を滅ぼした後、東方を支配するために行ったといわれる支配制度。周王は一族や功臣、地方の有力者に領地とその住民を支配させて諸侯とした(とくに軍事上の要地には一族中の有力者を封じた)。諸侯は公・侯・伯・子・男の五等爵に分けられ、爵位に応じた封土を受け、かわりに貢納・出陣などの義務を負った。これらの諸侯のもとには卿・大夫・士(臣下には大夫と士があり、大夫は上大夫と下大夫、士は上士・中士・下士に分かれる。このうち上大夫は卿ともいっただので、一般に卿・大夫・士という)などと呼ばれる直属の臣下がおり、各々官職と土地(これを采邑といい、諸侯の直轄地を公邑という)を世襲した。以上が支配階級を構成するものであり、その下には被支配層である一般農民が、さらにその下に奴婢などの下層民がいたという。以上は「礼記」などに記されているものであるが、これが実際に周代に行われた支配制度であるとは考えられない。周王が諸侯へ分与したと見られる青銅器に刻まれた銘文(金文)の検討などからは、殷・周王朝が直接統治するのは限られた範囲のみであって、その外にある諸国に対しては、線的にのぼした軍事拠点を確保して軍事的優位を保ちつつ、主として宗教的儀礼をとおして政治的関係を結び、殷王・周王を頂点とする連合を築いていたことが明らかにされている。ただし、金文の中には実際に周王が土地や人民や武器などを与えて支配を命じた封建の実例といえるものもあり、上述の封建は、周王朝のこのようなあり方をもとに、後世儒教的な理想を加えて描かれたものと考えられる。

このような殷・周王朝の体制のもとで、人々は氏族共同体を基本的な単位とし、まとまって生活していたと考えられる。農耕や祭祀・軍事などの活動も、この氏族共同体単位で行われていた。氏族共同体は単独で、あるいはいくつか集まって邑を構成した。「孟子」などは、周代の土地制度として、8家を1単位としてそれぞれに私田100畝を与え、中央に公田を設けて8家それぞれが10畝ずつ、計80畝を共同で耕作するという井田制が行われていたと伝えているが、これは後世の儒家の思想的産物であり、周代の実際とは考えにくい。

なお、近代以降、もともと周代の制度を指す語であった「封建」がフューダリズムの訳語として転用されたが、この場合の「封建」は主として領主階級内部の権力構造の問題としてレーン制の意味で用いられるか、あるいは領主対農民の支配隷属関係を問題として広義の農奴制の意味で(ただしヨーロッパではこの意味でフューダリズムの語を用いない)、またイデオロギーや生活様式などをも含む一つの社会類型を指す言葉として用いられるものであり、氏族共同体を基盤とし宗教的儀礼によって結びついている周代の「封建」の指す意味内容とは本質的に異なる。

**卿・大夫・士** 東周以後、宗法の秩序を支えとする「封建」制下の周室による世襲諸侯に対する支配力は急速に衰えてい



# 山川のICTでつなぐ十ふかまる

電子黒板・プロジェクター用

## 世界史デジタル指導書(世界史A・B共通)

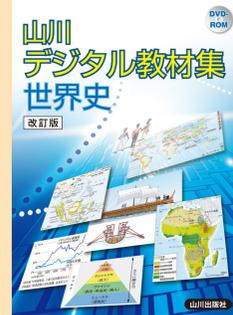
本体38,000円(税別) 商品番号: 86-074 ※デジタル教材集とデジタル素材集のセット商品です。

山川デジタル指導書の特長

- 電子黒板やプロジェクターなどICT機器を使用した授業で使えるPowerPoint板書例を収録。
- 教科書・教授資料のデータやデジタル素材集などを活用してPowerPoint教材のカスタマイズが可能。
- 特典として、PowerPointの使い方を収録。教科書ソフト(別売り)やデジタル素材集とあわせて使うことでICT対応のオリジナル教材が容易に作成できる。

## 世界史デジタル教材集 ※単体でもご購入できます。

本体18,000円(税別) 商品番号: 86-076 ※指導書扱いにつき、教科書取扱い書店にご注文ください。



デジタル素材活用の、あらゆる授業スタイルに対応!

## NEW 世界史デジタル素材集 ※単体でもご購入できます。

本体20,000円(税別) 商品番号: 87-067



探していた素材がすぐ見つかる! すぐ使える!

- 3つのポイント
- ①PowerPoint板書例(97のテーマ、約1100スライド)をご用意
  - ②短くまとめたエッセンスでポイントが一目瞭然
  - ③デジタルMAPや教授資料等の教材も充実

内容(世界史A・B共通)

- ①PDFデータ
  - ・教科書改訂版6点
  - ・教授資料「授業実践編」改訂版6点(詳説世界史〈世B310〉・新世界史〈世B313〉・高校世界史〈世B314〉・要説世界史〈世A318〉・現代の世界史〈世A315〉・世界の歴史〈世A316〉)
  - ・世界史A・B共通教授資料「研究編」
- ②世界史A授業用PowerPoint教材66テーマ(約900スライド)  
世界史B授業用PowerPoint教材97テーマ(約1200スライド)
- ③デジタルMap(11点)
- ④黒板投影用デジタル白地図
  - ・特典(PowerPointの使い方) 1ランク上の「PowerPoint資料作成術」/PowerPointで鍛える歴史の「論理思考」

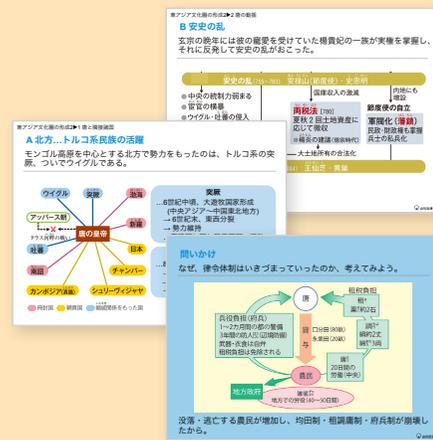
- 3つのポイント
- ①定評ある教科書と図録から、約2,100点を収録
  - ②教科書、キーワードなどから簡単に検索できる
  - ③画質の鮮明さにこだわり、遠くからでもよく見える

- 弊社発行の世界史教科書全6冊に加え、2冊の図録より、写真を除くすべての地図、系図、年表、グラフ、イラスト等の図版や資料を収録。
- 教科書の章立てだけでなく、キーワード検索が可能であり授業準備や授業中でもパソコンの画面上で簡単にセレクト・保存ができる。先生方のイメージする画像を使った授業を強力にサポート。
- パソコン画面上で拡大・縮小も簡単にでき、強調したい部分の投影も可能。
- 教室の後方からでも、十分鮮明な画像が得られる解像度。
- 画像データは、プリント作成にも使用可能。

世界史A・B共通

【教科書】世界史A: 要説世界史(世A318)・現代の世界史(世A315)・世界の歴史(世A316)  
世界史B: 詳説世界史(世B310)・新世界史(世B313)・高校世界史(世B314)

【図録】詳説世界史図録/世界史図録ヒストリカ



パソコンソフト

## 世界史正誤問題データ集

先生用(Windows版CD-ROM)

本体25,000円(税別) 商品番号: 86-070

おなじみの正誤問題集が最新バージョンで登場!



3つのポイント

- ①かんたんな操作性を実現
- ②利用シーンに応じた、オリジナル教材が作れる
- ③復習用の演習プリントのほか、実践的な入試対策としても使える

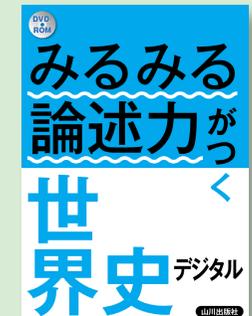
2015年までの大学入試に出題された過去7年間分の正誤問題をまとめて収録。様々な条件での抽出はもちろん、詳説世界史(世B310)の章・節からの抽出やキーワードでの検索も可能。  
※対応機種: Windows 8.1, 10



## みるみる論述力がつく世界史デジタル

本体20,000円(税別) 商品番号: 86-080

論述問題の「解き方」を筋道立ててわかりやすく解説した生徒向けの論述問題集『みるみる論述力がつく世界史』をベースに400題以上の論述問題を収録したデータベース。



教科書『詳説世界史』の章・節からも問題抽出が可能  
論述指導に便利な過去問データベース

電子黒板・プロジェクター用

## 授業用世界史A PowerPoint教材

本体3,600円(税別) 商品番号: 86-081

世界史Aの配列に合わせて約70テーマで構成したPowerPoint教材。写真や地図・図版も多数収録。

1スライド=1メッセージで簡潔明瞭。カスタマイズ可能でオリジナルのPowerPoint教材作成にも便利



デジタル地図

## 山川デジタル歴史地図

本体35,000円(税別)

商品番号: 86-079

地歴科ご担当の先生に必携のデジタル歴史地図。世紀ごとの世界地図をメインMAPとし、そこから教科書や図録に収録の地図への切り替えが可能。描画ツールを使って書き込みもでき、白地図にも切り替えられる。



拡大縮小や表示範囲が自由自在!  
これからの歴史授業に必携のデジタルMap

映像教材(DVD)

## 授業で使える世界史映像集全3巻

映像でみる諸地域世界/映像でみる近代・現代(A・B共用)  
監修 海上尚美・近江屋篤史・吉岡大輔 分売本体各18,000円(税別)



3つのポイント

- ①世界史への興味・関心を引き出す映像
- ②近代・現代を中心に映像や地図を豊富に収録
- ③授業に役立つ解説書付で理解がもっちはかれる

1巻(地理導入編) 74項目(計約111分) 商品番号: 87-063

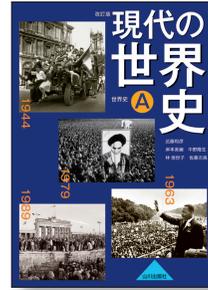
2巻(序章~3章) 39項目(計約41分) 商品番号: 87-064

3巻(4章~7章) 60項目(計約63分) 商品番号: 87-065

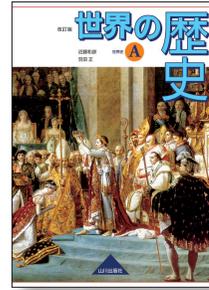
世界史を映像で体感

# 世界史A・B 教科書一覧

A



世A 315



世A 316

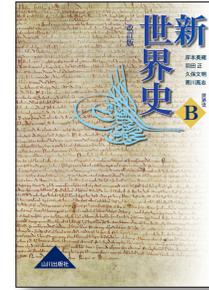


世A 318

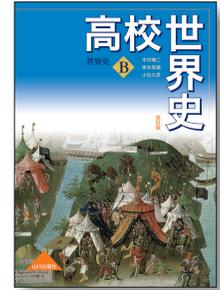
B



世B 310



世B 313



世B 314

## 著作者・ 編集協力者

(2020年3月現在, 五十音順)

**青木 康** (あおき・やすし)  
立教大学特任教授

**イギリス近代政治史**

- 詳説世界史
- 高校世界史



**今泉 博** (いまいづみ・ひろし)  
昭和学院秀英高等学校講師

**世界史教育**

- 詳説世界史
- 高校世界史



**木村 靖二** (きむら・せいじ)  
東京大学名誉教授

**ドイツ近現代史**

- 要説世界史
- 詳説世界史
- 高校世界史



**澤野 理** (さわの・おさむ)  
神奈川県立逗子高等学校教諭

**世界史教育**

- 要説世界史



**中野 隆生** (なかの・たかお)  
学習院大学教授

**フランス近現代史**

- 現代の世界史
- 世界の歴史



**村上 衛** (むらかみ・えい)  
京都大学准教授

**中国近代史**

- 世界の歴史



**小豆畑 和之** (あずはた・かずゆき)  
東京都立西高等学校教諭

**世界史教育**

- 世界の歴史
- 高校世界史



**大津留 厚** (おおつる・あつし)  
神戸大学名誉教授

**東欧近現代史**

- 世界の歴史



**日下部 公昭** (くさかべ・こうしょう)  
前筑波大学附属高等学校教諭

**世界史教育**

- 要説世界史



**鈴木 孝** (すずき・たかし)  
前東京学芸大学附属高等学校教諭

**世界史教育**

- 要説世界史



**橋場 弦** (はしば・ゆづる)  
東京大学教授

**ギリシア古代史**

- 詳説世界史
- 高校世界史



**森本 一夫** (もりもと・かずお)  
東京大学教授

**イスラーム史**

- 世界の歴史



**池田 嘉郎** (いけだ・よしろう)  
東京大学准教授

**ロシア近代史**

- 世界の歴史



**小田中 直樹** (おだなか・なおき)  
東北大学教授

**フランス近代史**

- 新世界史



**久保 文明** (くぼ・ふみあき)  
東京大学教授

**アメリカ政治史**

- 新世界史



**高山 博** (たかやま・ひろし)  
東京大学教授

**ヨーロッパ中世史**

- 世界の歴史



**羽田 正** (はねだ・まさし)  
東京大学特任教授

**イスラーム史**

- 世界の歴史
- 新世界史



**油井 大三郎** (ゆい・だいざぶろう)  
一橋大学名誉教授／東京大学名誉教授

**アメリカ現代史**

- 詳説世界史
- 高校世界史



**石井 栄二** (いしい・えいじ)  
東京都立国立高等学校教諭

**世界史教育**

- 詳説世界史
- 高校世界史



**勝田 俊輔** (かつた・しゅんすけ)  
東京大学教授

**アイルランド近代史**

- 新世界史



**小松 久男** (こまつ・ひさお)  
東京大学名誉教授

**中央アジア近現代史**

- 要説世界史
- 詳説世界史
- 高校世界史



**千葉 敏之** (ちば・としゆき)  
東京外国語大学教授

**ドイツ中世史**

- 新世界史



**林 佳世子** (はやし・かよこ)  
東京外国語大学教授

**オスマン帝国史**

- 現代の世界史



**石橋 崇雄** (いしばし・たかお)  
東洋文庫研究員

**中国清代史**

- 世界の歴史



**仮屋園 巖** (かりやその・いわお)  
東京都立国立高等学校教諭

**世界史教育**

- 要説世界史



**近藤 和彦** (こんどう・かずひこ)  
東京大学名誉教授

**イギリス近世・近代史**

- 現代の世界史
- 世界の歴史



**津野田 興一** (つのだ・こういち)  
東京都立日比谷高等学校教諭

**世界史教育**

- 要説世界史



**水島 司** (みずしま・つかさ)  
東京大学名誉教授

**南アジア史**

- 詳説世界史
- 高校世界史

